

かかみかいはらの埋文

各務原市埋蔵文化財調査センターだより 第3号



北山古墳群、右より1号墳・2号墳

北山古墳群

ごあいさつ

埋蔵文化財は国民の財産

各務原市は埋蔵文化財の宝庫とされていますが埋蔵文化財は、いま自然に堆積した土の中に永々と眠っている先人のものがたりです。

このままの状態の子々孫々の世まで保存することが最も望まれています。そしてこれから先々の時代の文化に貢献するものです。

しかし経済の発展には、開発は不可欠であり開発によって壊される遺跡があります。それを発掘調査し将来に残すため記録保存という方法で、現在発掘調査を行っています。埋蔵文化財は国民の財産ともいわれる所以です。各務原市埋蔵文化財調査センターでは、開発により破壊される前に発掘調査し先人のものがたりを調査、研究し貴重な遺物を皆様にも見て頂けるよう陳列をしております。

所長 藤井 弘道



勾玉出土状況

平成6年度に発掘調査が行われた北山古墳群からは、死者とともに埋葬されたと思われる装飾品も、数点出土しました。写真に写っているのは、そのなかのひとつで勾玉まがたまといます。2号墳の前庭部付近で発見されました。材質は瑪瑙めのうとされていますが、なかには硬玉こうぎょく、碧玉へきぎょく、滑石かつせき、ガラス製のものも知られています。瑪瑙でできた勾玉まがたまは、古墳時代後期に多くつくられました。勾玉の頭には孔があいています。ここにひもを通して首かざりやイヤリングとして用いられたようです。



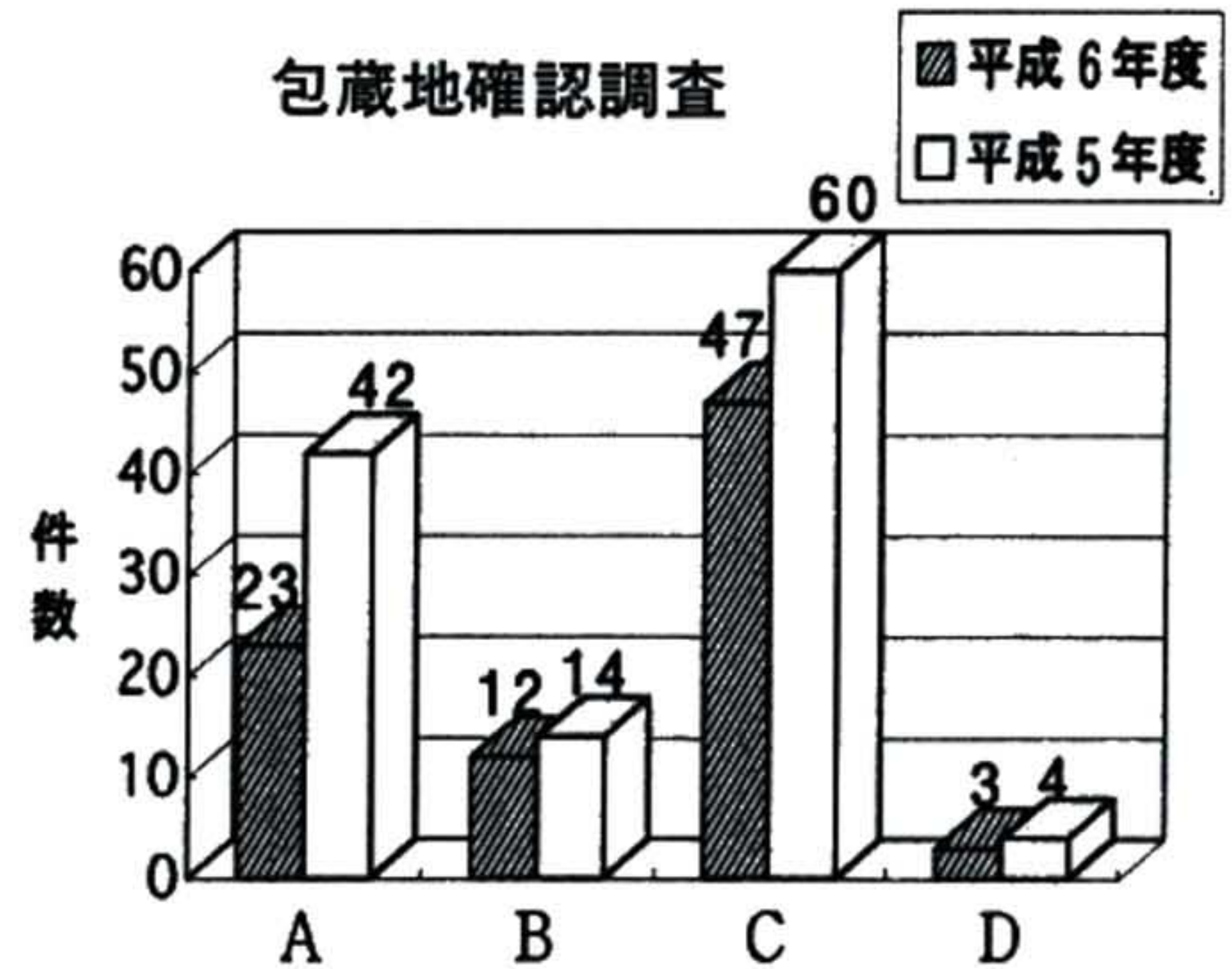
埋蔵文化財包蔵地確認調査

各務原市教育委員会では、市内における開発行為に対して、埋蔵文化財の確認調査を実施しています。この包蔵地確認調査は、すべての埋蔵文化財調査の基礎となるもので、事業者の方々、庁内各部課の埋蔵文化財に対するご理解とご協力によって行われるものです。調査の結果、開発される対象地域内に重要な遺跡が存在すると判断された場合、事前協議、試掘調査を経たうえで発掘調査が実施されます。平成6年度には、平成7年3月1日現在、総数85件の調査がありました。その内訳は、

- A：市開発審査会にかかる事業23件（42）
 - B：砂利採取事業12件（14）
 - C：A、Bに含まれない一般の開発事業47件（60）
 - D：役所内の事業3件（4）
- となっています。（括弧内は去年の件数）

調査件数は昨年度に比べてやや減少しているのは、全国的な景気の後退もその理由のひとつであると思わ

れます。開発行為には、やむをえず遺跡など文化財を壊さなければならない場合がないとはいえません。私たち埋蔵文化財調査センターでは、調査を通じて市内遺跡の残存、分布状況を探る一方、地域開発と遺跡保存の望ましいあり方を模索していきます。



試掘調査から立会調査へ

包蔵地確認調査によって遺跡の可能性が認められた場合、重機等を使用して遺跡の存在の有無、範囲の確認などを行うのが試掘調査です。試掘調査で遺跡の存在が確認された場合、開発が遺跡の破壊にまで至らず

全面発掘調査が必要ないと判断されるときには、立会調査を行い現況を記録します。

平成6年度は現在までに試掘調査9件、立会調査2件が実施されました。

平成6年度 埋蔵文化財試掘調査一覧表

遺跡名	申請地住所	開発目的	開発面積	実施日	主要遺構	主要遺物	回答・指示事項	所見・備考
三井遺跡の範囲内	三井北町3丁目155-2	共同住宅建設	115㎡	4/5	性格不明溝状遺構9基	丸瓦、山茶碗、弥生土器片各1点づつ	工事に遺構、遺物が発見された場合速やかな届出を指示	台地から狭く谷の斜面の途中に位置する。原地形は変更されている
織沼古市場遺跡、承国寺跡の範囲内	織沼古市場町4丁目31	共同住宅建設	2,776㎡	4/5	石垣状遺構1基 性格不明土坑3基	須恵器、山茶碗、弥生土器片など少数	基礎工事の際は立会調査 または駐車場など設計変更	織沼古市場遺跡A地区に類似した石垣状の遺構を検出
各務野遺跡の範囲内	織沼各務原町9丁目178-1,183-2	埋立造成工事	1,350㎡	4/6	性格不明溝状遺構3基 pit3基	出土遺物なし	工事に遺構、遺物が発見された場合速やかな届出を指示	各務野遺跡A地区に位置する。遺物が発見されず、可能性は少ない
屋敷遺跡の範囲内	蘇原古市場町4丁目61	共同住宅建設	800㎡	4/7	検出遺構なし	縄文土器、土師器、須恵器片など多数	工事に遺構、遺物が発見された場合速やかな届出を指示	土地改良により上部を削平されているが、遺物を伴う遺構を検出
前河遺跡の範囲内	坂加前河新町1丁目84	土地売買	400㎡	4/12	検出遺構なし	須恵器片少数	工事に遺構、遺物が発見された場合速やかな届出を指示	過去に集落が存在した可能性はあるが、削平が激しく確認が困難
真名越遺跡、織沼第一小学校遺跡に隣接	織沼古市場町1丁目68~75	砂利採取	7,176㎡	5/19 6/8	性格不明石組状遺構1基	須恵器、山茶碗片少数、打製石斧1点	工事に遺構、遺物が発見された場合速やかな届出を指示	西方に傾斜する台地から谷にいたる地形。北東隅を除いて削平が激しい
糸里遺構指定地	蘇原宮原町1丁目101,107~110	砂利採取	6,714㎡	8/22	性格不明土坑5基	山茶碗、弥生土器片少数	工事に遺構、遺物が発見された場合速やかな届出を指示	西方に傾斜する地形。黄褐色基盤土からは湧水を確認
真名越遺跡、織沼第一小学校遺跡に隣接	織沼古市場町1丁目37~44, 56~63	砂利採取	13,740㎡	12/1 12/15	石組状遺構1基、pit1基	中~近世陶器、山茶碗片少数	工事に遺構、遺物が発見された場合速やかな届出を指示	西方に傾斜する台地から谷にいたる地形。削平され遺跡の確認は困難
前河遺跡の範囲内	坂加前河町4丁目136	個人住宅建設	422㎡	12/8	堅穴状住居址2基 溝状遺構3基、pit数基	土師器、須恵器片多数、完形無台杯1点	基礎工事の際は立会調査または盛り土保存	台地下位段丘面上にあり、立地条件は、前河遺跡A地区と同じ

平成6年度 埋蔵文化財立会調査一覧表

遺跡名	申請地住所	開発目的	開発面積	実施日	主要遺構	主要遺物	所見・備考
織沼古市場遺跡、承国寺跡の範囲内	織沼古市場町4丁目31	共同住宅建設	2,776㎡	8/3	石垣状遺構1基（試掘調査で確認されたもの）	出土遺物なし	台地下位面下で、条件は織沼古市場遺跡と同様。石垣状遺構の西端を確認調査は対象地の一部のみ、建物基礎部分は後日に調査延期
平蔵寺跡の範囲内	蘇原新田町2丁目66	共同住宅建設	706㎡	8/3	性格不明溝状遺構1基（試掘調査で確認されたもの）	出土遺物なし	溝状遺構を確認したが、それ以外は削平が激しく、遺跡の可能性は低い。ただし設計上の都合から、今回は表土部分のみの立会調査を実施



遺跡発掘調査

北山古墳群 発掘調査

- ・遺跡所在地 各務原市須衛町1丁目615番地
- ・開発主体者 (株)明林建材
- ・調査対象面積 3,935㎡
- ・調査期間 平成6年7月19日から12月27日

北山古墳群は各務原市北部、蘇原北山町から須衛町にかけての丘陵地南側斜面に所在します。土砂採取に伴う緊急発掘調査として実施されました。北山古墳群の周辺には多くの遺跡がみられ、古くから人間の生活が営まれた地域であることが知られています。北山古墳群に隣接する北山遺跡C地区では、鎌倉時代から室町時代頃の積石塚が見つかりました。(埋文だより第2号参照)また、北山古墳群の南側の須衛持田遺跡からは、今から約7,000年前の縄文時代の土器や石器も見つかりました。



今回発掘調査された古墳は、市内に一般的に見られる円墳2基ですが、各務原市内では最大規模のもので、古墳の築造年代は、出土した遺物や古墳の型式などから6世紀末から7世紀と推定され、古墳時代の後期に属します。2基の古墳は新たに東から北山1号墳、2号墳と名付けられ、調査が進められました。なかでも2号墳は、比較的墳丘や石室が良好に残っており、当時の古墳の造りを知る上でも大変重要な資料となりました。また2号墳は、墳丘表面に石を積み上げる葺石構造をともなった、前2段、後1段の築成を持つことが明らかになりました。1号墳については、破損が激しく墳丘の形などを推測することは困難ですが、規模は2号墳とほぼ同様であったと思われます(写真右)。

古墳の周囲には、通常地面を掘り下げた周溝が掘られます。北山古墳群においても、古墳の周囲を削って低くした様子が確認できました。しかし斜面に位置す

るために、明確にわからない場所もあり、周囲の溝というよりは、自然地形と古墳をはっきり区別する役割をもっていたといえるでしょう。

＜古墳の横穴式石室＞

北山古墳群1号墳と2号墳は、両者とも横穴式石室をもっています。これらはほぼ同時期に同様の規模で築造されたものですが、石室の造りにはいくつかの相違がみられました。1号墳は人の拳大の山石が、びっしり床に敷き詰められていました(礎床)が、2号墳では礎床はみつきませんでした。また2号墳では遺体を安置する部屋(玄室)とそこへ続く通路(羨道)の境ははっきり造られ、羨道の幅は狭くなっています。(両袖式石室)それに対して1号墳の石室では、入口から奥まで石室の幅はほぼ一定を保ち、羨道と玄室のはっきりした境はありません。(無袖式石室)2号墳の形式は主に畿内によくみられ、一方1号墳の形式は美濃地方特有のものであるといわれます。すなわちこのような古墳の造りの違いから、埋葬された人物の身分を推測することができるのです。

＜出土した遺物＞

今回発掘調査された北山古墳群は、残念ながら両者とも盗掘が著しく、副葬品はほとんど残っていませんでした。古墳内部及び周辺から出土した副葬品としては、須恵器片、土師器片多数の他、棺に使用したと思われる鉄製の釘も2点見つかりました。その他にも水晶製切子玉、丸玉、勾玉、金環などの装飾品がわずかながら出土し、古墳築造当時を知る貴重な資料を提供しました。

12月17日に行われた現地説明会には、寒い中多くの参加者があり好評を博しました。





西町2号墳 発掘調査

- ・遺跡所在地 鶴沼西町1丁目282番地
- ・開発主体者 上田土地区画整理組合
- ・調査対象面積 40㎡
- ・調査期間 平成6年8月4日から9月5日

西町2号墳は各務原台地の東部に位置し、付近には県の指定史跡である坊の塚古墳や衣裳塚古墳があります。また、現在では消滅してその姿を見ることはできませんが、三角縁神獣鏡を出土した一輪山古墳もあり、古代のこの地域周辺に一大勢力が存在していたことを推測させます。これらの古墳に囲まれた西町2号墳(写



真)もそういった性格の一端を担うものとして考えられていました。

西町2号墳は直径約13m、高さ約2.7mの規模を持ち、発掘調査では区画整理事業によって削平を受ける墳丘の東部と、道路拡張が予定されている北側道路の敷設部分を対象にしました。調査方法は墳丘の大部分が現状保存されることを考慮して、削平を受ける部分に限定したトレンチ調査に留めました。

トレンチは幅1mとし、すべて墳頂から裾部にむかって放射状となるように設定して調査しました。

墳丘部分にかかるトレンチからは、主体中心部までの調査には及ばなかったものの、墳頂付近から基壇状の石組、また裾の部分からは地下2mにも及ぶ石組が見つかりました。

その結果、今まで古墳と考えられていた西町2号墳が古墳である可能性は薄く、むしろ中世以降の経塚や行人塚などの宗教的信仰の対象物として築かれたものではないかとの新しい所見が得られました。墳頂にある石碑の中には江戸時代の享保年間(徳川吉宗の時代)の銘を持ったものもあり、現代に至る間に何度か性格を変えながら受け継がれてきたものでしょう。

上田遺跡 発掘調査

- ・遺跡所在地 鶴沼西町1丁目160・161・163・165番地
- ・開発主体者 上田土地区画整理組合
- ・調査対象面積 720㎡
- ・調査期間 平成6年9月6日から平成7年1月15日

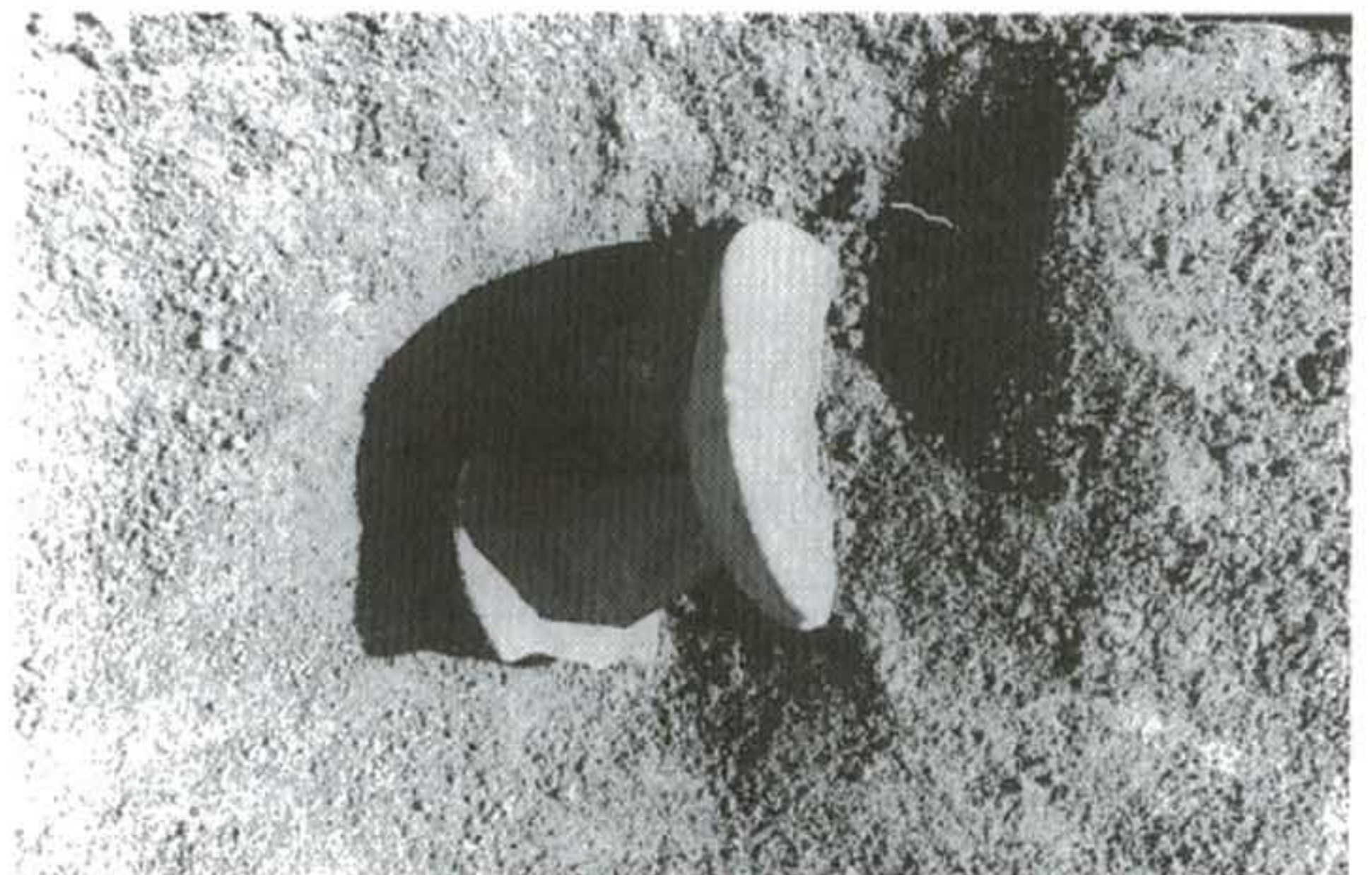
上田遺跡は区画整理事業に伴う確認調査によって新たに見つかった遺跡です。各務原市の東部、坊の塚古墳のある鶴沼羽場町付近から半島状に東へ細く延びた台地の先端に位置します。ここは周辺を一望できる高台となっており、生活の場としては当時から良かったのでしょうか。またこの辺りの地質の特徴として、今から約2万5千年前に木曾川の流れによって火山性の噴出物や灰が運ばれ形成されたといわれる、木曾川泥流堆積物の存在があげられます。上田遺跡においても、黄褐色をした木曾川泥流堆積物の地面を掘り込むように遺構が存在していました。

発掘調査は試掘による遺物出土の分布状況と地形などを考慮して、発掘区を設定し行いました。

その結果、弥生時代後期の竪穴式住居と思われる掘り込みが2基、土器などを廃棄・埋納したと思われる土坑が3基のほか、中世の水路跡とみられるY字型の

断面をした溝状の掘り込みが1条見つかりました。しかし、遺構の大半が後世の削平によって失われており、遺跡が営まれていた当時全体の姿を知ることはできませんでした。

竪穴式住居と思われる掘り込みからは、パレススタイル(宮廷様式)とよばれる東海地方独特の優美な壺型土器や、高坏(写真)、鉢などの弥生土器が多数出土しました。食料の煮炊きなどの日常生活に使った土器よりも、お供えに使うような特殊な土器の出土が目立つため、遺跡の性格が単なる集落跡ではなく、祭祀的な性格をもっていたことが想像されます。





整 理 作 業

各務東山遺跡

各務東町5丁目地内工業用地造成工事に伴い、平成4年度に発掘調査を実施しました。斜面を利用して、奈良時代から平安時代にかけて須恵器、及び灰釉陶器窯が営まれた遺跡です。

3ヶ年で行われている整理作業の2年目。本年度は遺物の接合・実測を行いました。

車洞遺跡

各務字車洞地内（仮称）花木公園予定地として、整備にさきかけて平成5年度に発掘調査を実施しました。縄文時代早期のものと思われる集石（炉）が検出され、コンテナ30箱分の遺物が出土しました。

本年度は、水洗・注記・接合・台帳作成・実測を行いました。

鵜沼古市場遺跡A地区

鵜沼南町4丁目に所在する中世の遺跡で、マンションの建築に伴い平成5年度に発掘調査を実施しました。溝状遺構、河原石の石組遺構などが検出され、コンテナ20箱分の遺物が出土しました。

本年度は、水洗・注記・接合・台帳作成・実測（写真）を行いました。

坊の塚古墳周濠範囲確認調査

平成4年度に範囲確認調査を行った鵜沼羽場町地内坊の塚古墳の周濠より出土した古墳時代、及び近世の遺物について、水洗・注記・接合・台帳作成・実測を行いました。また、出土した土師器・須恵器の胎土分析を業者に委託しました。

須衛・持田遺跡群

蘇原持田町、須衛町に所在する縄文時代から室町時代の遺跡で、東山ニュータウン造成事業に伴い昭和60年から平成2年にかけて発掘調査が実施されました。

本年度はセンターにおける整理作業のほか、調査により出土した縄文時代の植物種子鑑定、原稿執筆を、名古屋大学教授 渡辺 誠 氏に依頼しました。また、土器の鑑定、原稿執筆を朝日村調査員河野典夫氏に依頼しました。

天狗谷遺跡

昭和59年度から昭和60年度にかけて発掘調査が実施された須衛天狗谷地内に所在する遺跡で、古墳、奈良及び平安時代の窯跡が検出されました。

本年度は、出土遺物のうち須恵器の写真実測を業者に委託しました。

御坊山南遺跡群

各務東町1丁目地内に所在する古墳時代から鎌倉時代にかけての遺跡で、昭和63年度から平成2年度にかけて発掘調査が実施されました。

本年度は、出土遺物のうち須恵器の写真実測を業者に委託しました。



北山遺跡B・C地区

平成3年度、市道330号線拡幅工事に伴い発掘調査が行われた蘇原北山町4丁目地内中世窯のB地区、及び平成5年度に上記同理由により発掘調査を実施した蘇原北山町4丁目及び須衛町1丁目にまたがって所在する中世積石塚のC地区について、発掘調査報告書（各務原市文化財調査報告書第17号）を刊行しました。

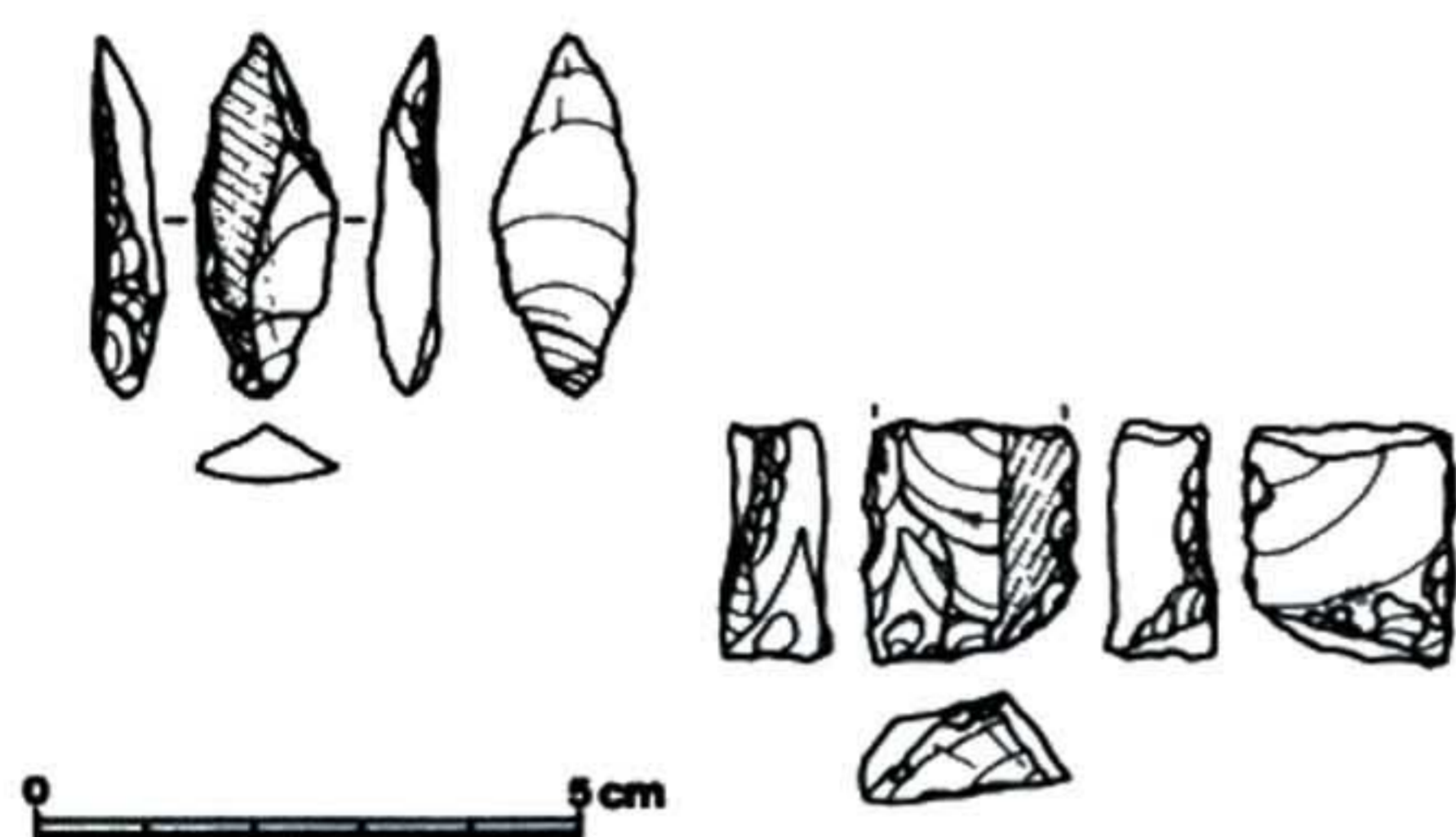
B 5 版、本文33頁、写真図版22頁

遺跡詳細分布調査

各務原市は、その豊かな自然を背景として、古くから人々の生活が営まれている土地であり、市内にはそうした先人たちの開拓の歴史が、県内でも有数の埋蔵文化財の宝庫として、今も数多く残されています。

しかしながら近年の大規模な開発の増加により、貴重な文化遺産である埋蔵文化財の保護が困難になっています。

こうした現状を踏まえ、各務原市教育委員会では、



宮代遺跡出土ナイフ形石器(旧石器時代)

開発と文化財保護のバランスを図るための基礎資料を作成する調査を行っています。遺跡詳細分布調査と呼ばれるこの調査は、国の補助を受け、平成5年度より5ヶ年計画で行われています。

調査の内容は、現地での遺物採集調査を中心に、聞き取り調査や古地図や航空写真の検討などにより、市内における埋蔵文化財の所在やその年代・性格の把握を行うものです。

平成6年度は、5年度の鶴沼地区における遺物採集調査に引き続き、蘇原地区における遺物採集調査を行いました。

蘇原地区は大きく分けて、北部の丘陵地と各務原台地にはさまれた境川沿いの低地からなり、所在する遺跡も古くは旧石器時代から、奈良・平安時代の窯跡や白鳳時代の古代寺院、中世の館跡まで多岐にわたっています。今回の調査でも、旧石器時代のナイフ形石器や、古代の焼き物など様々な時代の遺物が数多く出土しました。

普及啓発活動

第4回埋蔵文化財保護普及啓発事業「埋文フェスタ」

普及啓発講演会

平成6年7月31日(日)、各務原市立中央図書館4階視聴覚ホールにおいて、埋蔵文化財に興味をもったいただき、保護の意識を高めていただくため、広く一般を対象として開催しました。午前中はセンター職員による発掘事業報告を行い、午後からは講師をお招きしてご講演をいただきました。

午前の部 発掘事業報告

平成5年度の発掘調査は4件実施しましたが、そのうちの北山遺跡C地区、宮塚遺跡、鶴沼古市場遺跡A地区の3件について、スライドを使用しながら発掘の進行方法、遺構・遺物の検出状況、出土遺構の解説また現段階での成果などの報告を行いました。

午後の部 講演会「各務原の縄文時代をめぐって」

講師 愛知学院大学文学部

歴史学科教授 大参 義一氏

各務原及びその周辺の地域における縄文時代のモノの移動、交流について、各地で出土している遺物に見られる特徴と、市内の炉畑遺跡などの遺跡から出土した遺物に見られる特徴との類似などを通してわかりやすく解説していただきました。





速報展及び企画展

速報展は午前の部の報告にあわせ、平成5年度の発掘調査による出土遺物展示及び写真パネルによる遺跡の説明を行いました。遺跡の航空写真は、

「こんな家と家の間の畑にも遺跡があるとは。自分の家の隣の畑にもあるのかな」

と、興味をもって見ていただけました。

企画展は講演の内容にあわせ、縄文時代の生活、モノの移動、交流というところに焦点をあて、6つのブロックに分けて主に炉畑遺跡出土遺物を中心に展示を行いました。どんな形の遺物が何に使われていたか、どの地方からもたらされたかについて、わかりやすく展示を行いました。

体験実習

平成6年7月30日(土)、視聴覚センター研修室において、土器の拓本実習を行いました。ほぼ定員40名の参加があり、好評を博しました。実習を通して埋蔵文化財に興味をもっていただけたらと思います。

現場

各務原市埋蔵文化財調査センターでは、発掘調査や現地説明会、埋文フェスタ等の事業を通じて、多くの市民の方々の声をうかがい、埋蔵文化財の保護や、保護思想の普及活動のための資料としています。

今回は、そうした現地説明会や埋文フェスタ等の普及啓発事業に参加していただいた方からの声を取り上げてみました。



普及啓発事業

現在センターが行っている普及啓発事業には、現地説明会、埋文フェスタの開催、本誌「かかみがはらの埋文」の刊行等があります。現地説明会と解説パンフレット・埋文フェスタについてはおおむね好評をいただいておりますが、こう

発掘調査現地説明会

本年度は北山古墳群、上田遺跡の2ヶ所において現地説明会を行いました。北山古墳群説明会は参加者が約200名とかなりの方々に参加していただき、市民の埋蔵文化財に対する関心が高まっていることを実感しました。また上田遺跡では、大雪のため一時は中止にするところまで考えたのですが、雪の中20人の方が見に来られ、急きょ説明会を決行するといううれしいハプニングもありました(写真)。



の 声

した普及啓発事業について、その拡充や、実施時期等についての広報の充実を望む声が寄せられています。また、新たに歴史講座や、有志による学習グループへの講師派遣、土器製作体験講座や発掘体験会を開設してほしいなどの声もありました。

発掘調査の成果を、市民のみなさんにいち早く還元するためにセンター展示室において展示を行っている速報展は、市民のみなさんにとどまらず、関係機関からもお誉めをいただいておりますが、展示解説や市内唯一の展示施設として、企画展の充実が望まれています。

発掘調査

現地説明会だけにとどまらず、発掘調査途中での見学等も要望が寄せられています。また調査の成果として刊行される発掘調査報告書が難解なため、一般向けの平易なパンフレットを望む声もあります。

これまでご紹介してきた他にも、市民の方からは様々なご意見・ご要望が寄せられています。センターでは今後、こうしたご意見を検討し、郷土の埋蔵文化財について親しんでいただくよう努めていきます。

センター日誌抄

- | | |
|---|--|
| <p>4月5日 (財)岐阜市遺跡調査会整理作業員(1名)見学
 6日 長野県上田市立信濃国分寺資料館視察
 6日 (財)岐阜県文化財保護センター 小野木氏
 19日 名古屋博物館収蔵品返却
 26日 各務原市立中央小学校3年生(82名)展示収蔵庫見学
 30日 府中市教育委員会社会教育部(1名)見学
 5月15日 各務原市つつじが丘子供会(20名)展示収蔵庫見学
 18日 大江氏 報告書増刷にかかる打合せ
 25日 文化庁 岡村氏視察
 26日 掛斐郡池田町教育委員会 横幕氏
 6月10日 関ヶ原歴史を語る会(50名)展示収蔵庫見学
 15日 松阪市教育委員会文化・スポーツ課文化係(2名)
 大牧一号古墳出土遺物鉄器実見
 16日 各務原市教育委員会あすなろ相談室(6名)展示収蔵庫見学
 22日 愛知県陶磁資料館遺物貸出
 7月13日 釜石文化財保存処理センター遺物搬出
 14日 長野県上田市立信濃国分寺資料館遺物貸出
 15日 文化庁 井上氏、岐阜県教育委員会文化課 大熊氏
 関市教育委員会 田中氏視察
 21・22日 山崎西子供会(30名)広報「動く市民教室」
 26日 北山古墳群発掘調査開始
 30日 「埋文フェスタ 第1日目」
 整理室見学・体験学習実施
 31日 「埋文フェスタ 第2日目」
 第4回埋蔵文化財保護普及啓発講演会開催</p> | <p>8月2日 羽島郡教職研修 北山古墳群発掘調査現場発掘体験
 3日 公募による親子(30名)広報「夏休み動く市民教室」
 4日 鶴沼西町2号墳発掘調査開始
 18日 (財)瀬戸市埋蔵文化財センター(1名)遺物実見
 9月6日 上田遺跡発掘調査開始
 8日 長野県上田市立信濃国分寺資料館遺物返却
 21日 山県郡小中学校長会(19名)視察
 21日 岐阜市歴史博物館(1名)遺物実測
 28日 (財)土岐市埋蔵文化財センター(4名)視察
 10月21日 遺跡詳細分布調査開始
 26日 広報「動く市民教室」(13名)
 29日 長野県埋蔵文化財センター(1名)視察
 11月8日 加茂郡川辺町立川辺北小学校(40名)展示収蔵庫見学
 12日 図書館体験講座(7名)施設見学
 16日 緑苑小家庭教育学級(30名)広報「動く市民教室」
 12月17日 北山古墳群現地説明会実施
 22日 不破郡垂井町教育委員会社会教育課 大岡氏
 12月27日 北山古墳群発掘調査終了
 1月10日 (財)岐阜県文化財保護センター 佐野氏
 15日 上田遺跡現地説明会実施
 上田遺跡発掘調査終了
 25日 関市教育委員会(10名)視察
 27日 石川県立埋蔵文化財センター(3名)縄文土器調査
 2月21日 岐阜県教育委員会高等学校教育課及び文部省庶務課職員(3名)視察
 3月1日 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査部(1名)
 稲田山出土遺物実見</p> |
|---|--|

各務原市文化財調査報告書刊行案内

各務原市埋蔵文化財調査センターでは、下記の文献を刊行・配布しております。

- 1号『炉畑遺跡発掘報告書』 5,000円(送料340円)
 縄文時代中期～晩期にかけての集落遺跡。咲畑式土器、里木式系土器、加曾利E式系土器などが多数出土。
- 2号『稲田山古窯跡群発掘調査報告書』 5,000円(送料340円)
 奈良時代～平安時代にかけて営まれた須恵器窯の遺跡。合計16基の窯体が検出され、双耳環、四耳壺などが出土。
- 3号『三井遺跡・六軒遺跡』 5,000円(送料340円)
 奈良時代～中世にかけての住居址45基の集落遺跡と縄文時代中期の住居址2基の集落遺跡。美濃国刻印入須恵器を含む多数の遺物が出土。
- 4号『桑原野山1号古墳発掘調査報告書』 2,000円(送料240円)
 古墳時代後期の前方後円墳。小型で横穴式石室を有する。須恵器・大刀・鉄鏃などが出土。
- 5号『半ノ木洞古墳発掘調査報告書』 3,000円(送料310円)
 古墳時代後期に属する古墳で高坏型器台須恵器や蓋坏などの須恵器多数と大刀・鉄鏃などの鉄製品、勾玉・管玉などの玉類が出土。
- 6号『山の前1・2号古墳発掘調査報告書』 3,000円(送料240円)
 古墳時代後期。1号古墳は円墳、2号古墳については攪乱の

ため不明。横穴式石室を有する。土師器・須恵器・ガラス製丸玉などが出土。

- 7号『加佐美山1号古墳発掘調査報告書』 2,000円(送料240円)
 弥生時代後期の墳丘墓であると思われる。主体部は不明。石器、及び弥生土器・須恵器・山茶碗などが出土。
- 8号『八龍遺跡A地区発掘調査報告書』 3,000円(送料310円)
 古墳時代前期の住居址2基と中世の鍛冶工房址2基を中心とした複合遺跡。尾張地方独特のS字状口縁台付甕や土師器、山茶碗が多数出土。
- 9号『西洞山古墳群発掘調査報告書』 3,000円(送料310円)
 古墳時代後期の群集墳4基の発掘調査で、土師器、須恵器や銅製耳環・管玉・土製ねり玉等の装身具、鉄鏃・直刀等の鉄製品、馬具などが多数出土。
- 10号『北山遺跡A地区発掘調査報告書』 3,000円(送料240円)
 近世に属すると思われる整地面や溝状遺構、石垣状遺構が検出され、陶磁器多数と常滑焼大甕、山茶碗などが出土。
- 11号『巾下古墳群発掘調査報告書』 2,000円(送料240円)
 古墳時代後期の群集墳2基の発掘調査で、平瓶、横瓶、高坏等の須恵器と土師器甕を出土。
- 12号『八龍遺跡B地区発掘調査報告書』 4,000円(送料310円)
 弥生時代中期の竪穴式住居址、古墳時代前期の住居址各1基



各務原市文化財調査報告書刊行案内

と縄文時代～室町時代の土坑多数が検出。縄文土器、石器、埴輪時代の土師器、室町時代の山茶碗などが出土。

13号「野口庵寺A地区発掘調査報告書」 3,000円(送料240円)
白鳳時代の寺院址。周溝状遺構、鋳造遺構、掘立柱建物址4棟、溝状遺構、溝状遺構群が検出。瓦、須恵器、土師器、鉄釘、

瓦塔、鋳型、鋳滓などの遺物が出土。

14号「前洞遺跡A地区発掘調査報告書」 5,000円(送料340円)
奈良時代～平安時代にかけての集落遺跡。住居址14基(焼失家屋1基)、竪穴状遺構4基、掘立柱建物址2基、溝状遺構10基などが検出。土師器、須恵器、鉄製品などが出土。

編 集

一昨年のは冷夏、昨年は猛暑。発掘現場は熱気と乾燥で砂ボコリが舞う。北山古墳群の現地説明会前日は雪が舞い上田遺跡の現地説明会当日は、一面真っ白な雪景色。発掘日和のうららかな春や秋は一瞬に過ぎるよう？

考古好きな作業員の皆さんの熱情に支えられ発掘作業が進んでいきます。いつもありがとうございます。
(所長 藤井)

「(図面は)きれいでなく正確に書け。そうでないと後世に害を残すだけだ」(小林行雄)——最近読んだ本にこの言葉がありました。私の学生時代も恩師や先輩からそのように教えられました。時代が変わったと言われますが、埋文や考古が変わったとは思いません。
(学芸主任 渡辺)

全国各地で大きな発見に湧いた今年でしたが、本市でも現地説明会の参加者の増加などに、一過性でない文化財保護思想の息吹を感じます。(学芸主事 大熊)

埋文センターに勤務してそろそろ1年がたとうとしています。昨年夏、暑さのなかの北山古墳群の発掘調査は、辛かったけど特に印象に残りました。
(学芸主事 戸崎)

月日の経つのは早いもので、今年度ももう終わりです。あっという間の一年間でしたが学ぶことは意外に多かったように思えます。
(主事 田中)

〈埋蔵文化財調査センターのご案内〉

- ◇開館時間：午前10：00～午後5：00
- ◇休館日：毎週月曜日・祝日・年末年始
- ◇入場料：無料・展示収蔵庫を常時公開
ビデオ放映・パンフレット配布
- ◇交通：名鉄各務原線市民公園前下車徒歩1分

後 記

今年度も終わりに近づきはやセンターだよりの編集時期になりました。この1年は、埋文行政の難しさを痛感した年であり、ここで働く職員の苦勞を考えさせられる年でありました。熱い中大変ご苦勞様でした。

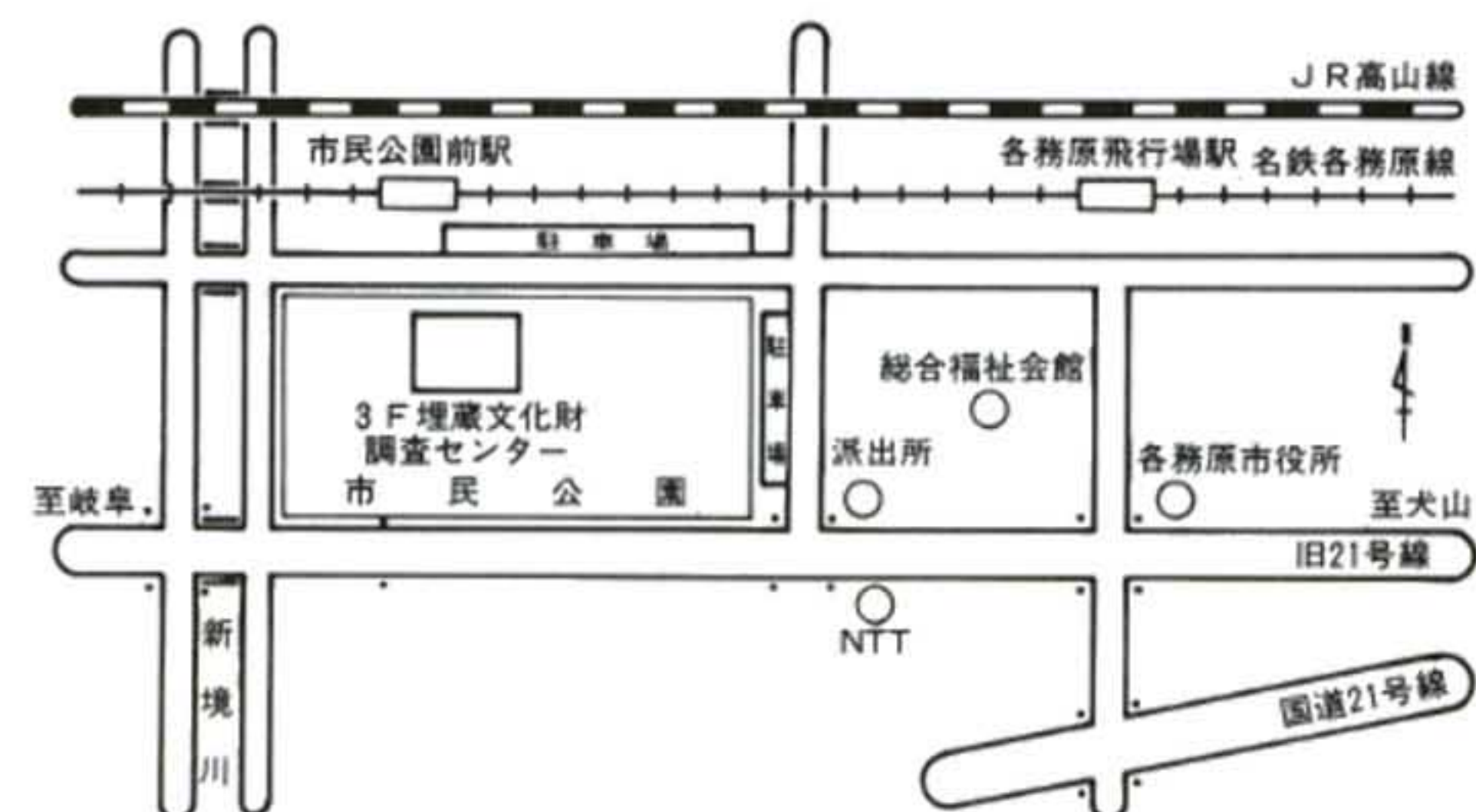
近年新聞紙上をにぎわせている発掘調査の報告よりも、守っていく地道な活動が大切と思います。
(主任主査 小林)

昨年夏は観測史上最高の猛暑！。北山古墳群の発掘は干物になる思いでした。また、次々に判明する古墳の構造は、今までの円墳の概念を超越するものばかりで驚きの連続…。実にホットな調査でした。
(学芸主事 西村)

現代社会において、情報に翻弄されることなく物事の本質を見極めることが、いかに重要かを痛感させられた1月17日の事件でした。
(学芸主事 伊藤)

各務原市埋蔵文化財調査センターだよりの 第3号
〈平成7年3月〉

編集発行 各務原市埋蔵文化財調査センター
〒504 岐阜県各務原市那加門前町3丁目1-3
TEL0583(83)1123 FAX0583(71)1145



埋蔵文化財探訪 第3回 鵜沼地区の古墳 Part III

前回、前々回とお送りしてきました鵜沼地区の古墳も、今回で最終回を迎えました。今回は鵜沼東部の古墳を探訪してきました。



名鉄各務原線の鵜沼宿駅で下車し、すぐ東の道を北へ向かいます。国道21号線を越した次の信号で、交差する東西の道が鵜沼宿街道(旧中山道)です。この交差点を右に曲がって街道を散策してみましょう。

この辺りは、かつて宿場町として栄えた鵜沼宿があったところで、街道沿いには今も古い町並みが残されています。

街道の景色を眺めつつ、しばらく歩いて行くと、左手に二宮神社の鳥居が見えます。すぐ脇には、かの俳人松尾芭蕉が、鵜沼宿滞在の折に詠んだという、「ふぐ汁も 喰へば喰せよ 菊の酒」の句碑があります。

石段を登って神社に入ると、拜殿の石垣にポッカーリと洞窟のような穴があいています。これが二宮神社古墳です。



二宮神社古墳

横穴式の石室を内部主体とするこの古墳は、直径約29mの大きさをした円墳です。石室は玄室とよばれる

遺体を安置した部屋が残るのみで、羨道部を含め墳丘の南部は削られて無くなっています。現況での石室は長さ6m、幅2.1~2.6m、高さ2.3mの規模を持っています。墳丘の上は神社社殿の建築にともなって整地され、天井石の一部が露出した状態となっています。

出土遺物の所在はわかりませんが、石室の構造などから築造時期は6~7世紀頃と考えられています。

蛸で知られる大安寺川を渡って、街道をさらに東へ行った次の信号で、うとう峠へと向かう中山道をあとにし、南東方向への広い道を進みます。鵜沼東町の交差点で国道21号線と合流し、そのまま山崎町交差点まで進み左折します。みどり坂といわれるこの道を100mほど登って、左に折れると桑原野山西公園があります。この公園の敷地内にある高く盛られた丘が、現在市の史跡に指定されている金縄塚古墳です。



金縄塚古墳

現在の状況から、直径37m、高さ5.7mの規模を持つ円墳といわれていますが、南東部がやや張り出しているため、前方後円墳と指摘する説もあります。

墳丘の中央は江戸時代の発掘によって、大きくえぐられ、くぼんでいます。このえぐられた部分には主体部が含まれていたようで、古い文献にいくつかの遺物が出土したとの記録が残されています。その遺物の中に金の縄があったことから、金縄塚の由来となっているようです。

この周辺の丘陵には、たくさんの古墳があったようですが、宅地造成によってそのほとんどが消滅しています。金縄塚の北にあった桑原野山1号墳もその1つです。昭和57年に行われた発掘調査によって、須恵器のほか、鉄剣・馬具などの鉄製品やガラス製の丸玉が出土しており、横穴式石室を持った前方後円墳であることがわかっています。